

# <真剣味>85

2018. 2. 24

『 獲るぞ。NO. 1! 』

<意識・勇気・チェック・挑戦・人の真似・感じ取れる能力>

「充実した遠征を」

現在、選手は（成長1期）ビニールハウスとエコスタ室内を利用して走る（素早く、長く）・投げ・捕る・打つ・判断する等の技術向上を地道に続けています。

ほとんどの選手は一生懸命に取り組んでいます。ただ選手の一部には、まだ何となくトレーニングしている人や他に流されてしまっている人がいることが、とても残念です。

もうすぐ3月というのにこれでは少し練習試合期が心配になります。チーム・リーダーには取組方に疑問が出たら、もっと活躍してもらいたい。できればみんなを集め、今の取組について説明し、「もっとこうしたいということ」を全体に発信してもらいたい。当然勇気は必要です。でも先頭に立つチーム・リーダーとしては大事なことだと思います。

変な気を使いながらグラウンドに立って、自分達の良い野球をすることはできないはず。とにかくチームに良い風を送りながら、自分達の野球に集中したいものです。

練習の成果を出すには、とにかく課題を意識しながら、繰り返し、繰り返し同じことでも意欲的に取り組むことが大切になってきます。全選手にはその意識することを頭に入れ、トレーニングに向かってもらいたい。

この成長1期（2月）では基本的な動きである、走り方、捕り方、振り方、投げ方などをしっかり身につけてもらいたい。そしてこの土台となる部分を身に付けることにより、それを生かして試合に繋げたい。それが3月の成長2期。1期の成長を生かして、試合でさらにレベルアップ。その充実がないと試合で一方的に攻撃されて終わることが多いと思います。そして選手自身の試合に出る回数が制限され、あるいは確実に減ってきます。だからこの苦しい時期の頑張りが必要で

今年の新3年生は19名、2年生は8名。この27名が自由に動き回れるくらいになるには、多くの試合数が必要になります。だから3月の遠征を多く設定して頂きました。ただ一番怖いのは、疲労によるケガです。その点については指導者がしっかり目を配ります。

そしてこの成長2期を充実させることが、4月22日からスタートする春季大会の結果に繋がると思います。選手の頑張りに期待します。

○共に闘う!

○開き直る力(1~3秒で回復する)

<6年生の新入団選手>…2月24日現在で13名となりました。本当に有難く、嬉しい限りです。そして大きな責任を感じます。生き生きと元気の良い取り組みが目につきます。ケガをせず6月の大会を目指して頑張っていきましょう。

<日本文理高校監督の功績を讃える会に参加して>

・約400人を超える野球関係者が集まる中、2009年日本文理高校が夏の甲子園で準優勝した際のビデオが流れていました。その場には日本文理高校の監督・中京大中京高校の当時の監督・そしてその試合を放送していたABC朝日放送のアナウンサーがおられました。その当時を振り返りながら決勝戦の特に9回2アウトランナー無からの日本文理高校の猛攻を中心に流していました。当時の関係者がいる中で、あのビデオを観ることで久しぶりに熱くなる何かを感じることができました。日本文理高校が変わることで、新潟県の野球が変わっていくさまを見たような気がしました。監督様、本当にご苦労様でした。

<身に付く>

・2月17日(土)、バッテリーがジャンボドームで練習した日のことです。ハウスでの練習が終わり、バッティングセンターで保護者の車を待っている時のことです。そこに5~6人の中学生が来て、自分達の世界で大きな声を出し、他に迷惑をかけていることも分からない様子でした。彼らが帰った後、使用したバッティングゲージ内にヘルメットが転がっていました。それを見たうちのキャプテンは何も言わず、ゲージにスーッと入り、そのヘルメットを所定の位置に戻していました。その瞬間、これこそ身に付いた社会性と思いました。素晴らしかった。